

平成28年度 さぎなみっこ保育園 自己評価の公表について

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した、自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

園全体の評価

●今年度の評価

- ・保育者が子どもの発達に寄り添った保育を計画し、実践することができた。
- ・子どもの健康と安全に配慮した保育実践を行うことができた。
- ・食育を通して、健康な心と身体を育て、食事のマナー身につけることができた。
- ・稲刈りやじゃがいも掘り、クッキングを通して、子どもたちが食育活動に関わるすることができた。

●今年度の気づき

- ・食育活動をする際に、幅広く取り組むのではなく、畑の活動、田んぼの活動など、土壌づくり、苗植えから収穫までの一連の流れを、子どもたちに体験させることで、より食育につながるのではないか。
- ・食育活動を通して、食に対する興味や関心をもち、食育に参加する課程で、体力づくりに繋がりたい。
- ・食育リーダーを決め、食育研修に参加し、全職員が食育に対する知識を高めていく必要がある。

●次年度の目標

- ・各クラス間で情報を共有し、保育計画・保育実践に繋がられるようにする。
- ・3・4・5歳時クラスを中心に食育活動に携わる。食育活動を通して、戸外活動を積極的に取り入れる。
- ・畑や田んぼの土壌づくりを行い、環境調整を図る。
- ・食育リーダーを決め、食育研修に参加する。

【食育について】

園の周辺には、子どもが自然に触れ合う環境が整っている。

田んぼや畑（野菜作り）を通して、子どもが収穫する喜びや感動を味わうことで、子どもの健康な心と身体を育てることに繋げる。収穫した野菜を調理して、食することで、苦手な食材でも口にしようという気持ちが芽生え、食べようという意欲の向上につなげることができる。

《平成28年度 計画と実践》

- ・畑や田んぼの整備、土壌づくり ⇒ 職員が実施。
- ・野菜の苗植え、水かけ、収穫 ⇒ 3・4・5歳児が中心となり実施。
- ・田んぼの稲刈り ⇒ 4・5歳児が実施。

《平成29年度 保育計画》

- ・畑や田んぼの苗の植え付けから収穫までの一連の流れを、子どもたちに体験させる。
- ・畑や田んぼの整備、土壌づくり、野菜の苗植え、水かけ ⇒ 2・3・4歳児が中心となり実施。
- ・食育リーダーを決め、食育研修に参加する。職員の食育に対する知識向上を図る。

【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返り、園全体の保育の質の向上のためには、報告・連絡・相談、情報共有の重要性を感じた。園全体が一丸となってチームで、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋げていくことが重要である。そこで、園の特色である、食育活動を通して、保育計画に基づいた、保育実践に取り組んでいく必要がある。